

音楽リズム・オン・ステージに 参加して

～保育者の自己変革を目指して～

小崎 祥子

毎年、夏の大半を新現代幼児教育研究会のリズム研修「オン・ステージ」の練習に当てる様になって何年になるでしょう。今年もまた暑い毎日を練習に明け暮れる日々が続くことでしょう。

「現代の様にめまぐるしい変化に富んだ社会の中に生まれ育っているお子さん達を前にして、私共教師は常に勉強していなければ……」とは、この研究会の指導者でありまた私の恩師であられる堀合文子先生のお話の中にいつも出てくる言葉です。

私の「オン・ステージ」との出会い、第一回の戸倉ハル先生の追悼会の舞台を拝見させて頂いた時に逆のほりますが、この時は指導なさっていらした堀合先生の熱意と、それに一生懸命に応えようとしている先生方の熱意がひしひしと伝わってきて、大変感激したことを覚えています。その後、「ご一緒に……」とお誘い頂いたのですが、実行に移せない

まま第三回の「オン・ステージ」を見せて頂き、そこで私は大変なショックを受けました。というのは、一回目の時と三回目の時の進歩を目のあたりにしたからです。私は正直言って音楽は好きですが、動きのリズムは得意ではありませんので逃げていたのですが、手をこまねいている一年と出来ないなりに努力を重ねて過ごす一年の違いを思い知らされた会でした。理屈は分かっているも動けなくては何にもならないと考えました。何気ない教師の動き、リズム、毎日一緒に生活する教師の身のこなしは、お子さん達にとって最大の環境であるはずですよ。とすれば美しい動きを身につけておかなければなりません。

当時、主婦専業で子育て真っ最中の私にとって、練習に参加することは困難な事でしたが、「常に勉強しなければ……」との励ましの言葉と、将来復職の機会があった時の為に少しでもプランクを感じな

い様にしたいとの気持ちから「お子さんは連れていらっしゃい」とのご好意をそのまま受けて、当時二歳半だった息子の手を引いて子連れで勉強に通い始めたのです。三年程は息子のことで研究会の先生方にも大変ご迷惑をお掛けしたのですが、皆様がとても温かく迎えて下さったので励まされてなんとか続けることが出来ました。その日から今日まで、その頃お元気だった小林つやえ先生がよくおっしゃっていらした「継続は力なり」の言葉を信じて続けています。現在は息子も高校生になり、私も復職して八年目になりますが、日々の生活に大変に役立っており、続けていて良かったと思っています。

さて、「オン・ステージ」の舞台での動きは、歩く、走る、飛ぶ等の基本的な動きに始まり、作品の発表に移行するのです。作品では昔の動きと今の動きとの比較もしたり、歌や楽器やリズム劇をしたりと夏の集中練習の成果のみでなく、毎月の月例研修

会での積み重ねの発表となるのです。舞台での動きはそれ自体が大切というよりも、発表すると言う緊張感で集中して学ぶ事が出来るという点において大切だと思っています。

実際には毎回の練習が大切なのです。まず、基本動作から入ります。背筋を伸ばして姿勢を直し、体重を移動させながら歩くことから始まります。いつも何気なく歩いているのですが、正しく美しく歩こうと意識すると、なぜか歩けなくなってしまうのです。堀合先生のおっしゃる様に歩こうとすればするほどギクシャクした動きになってしまうのは、正しく美しい動きが、身に着いていない証拠です。歩く事ひとつを取り上げてもこうなるという事は全ての動きにも共通して言えることで、堀合先生の真似をしているつもりでも、堀合先生のおっしゃる通りに動いているつもりでも、実際には出来ない事が多いのです。繰り返し繰り返し練習しても、なかなか思

うように動けません。しかし、基本の動きはとても大切で、日々の保育の中でも常に基礎になっていると思います。そして、歩く、走る、飛ぶの三つの基礎を元に、ツーステップ、ホップ、ギャロップ、ワルツ等といろいろ応用していきます。応用する事によって、日常の保育者の動きにも少しずつ浸透して



いくのです。

この基本の大切さについて堀合先生は、ある文章の中で次の様に書いていらっしやいます。「何事にも基本は大切なことは言うまでもありません。ゆるやかな動きでも早い動きでもすべて基本から来ております。幼児と共に生活する私共は特に大切な事と信じます。一緒におどったりするだけでなく日常の保育自体がリズムであり基本の動きがものを言います。それも表面だけ、形だけのリズムでなく体の中に動いているリズムカルな動きが保育を作りいきいきとさせ、幼児を指導するので頭の働かせ方もその大きな位置をしめます。基本は一〇年やってもくりかえしする事が大切で表面にはみえなくても幼児の心の中に浸透してゆくものです」。

次に作品に入りますが、これは昔からの振りを伝えていくものと自由表現とがあります。中でも自由表現の難しさは最たるものがあります。動物の表現

を例に取ってみても、それぞれの特徴を捉えてその物に成り切って動く事はとても難しいことです。自分としては精一杯その物らしく動いてはみるのですが、なかなかうまくいかずに、すずめがカラスや蜂の様になってしまったり、蝶々が飛行機や鳩に似ていたりする事も度々あるのです。これは技術的な未熟さに加えてその物に成り切っていない、即ち無心になって邪心を取り除き、心からその物に成り切っていないということなのです。心を入れる事と、その物に成り切って動く事、子どもの心で子どもらしく表現する事の大切さを繰り返し繰り返し教えられます。何回繰り返ししても思う様に出来ないことが多い、悲しくなったり辞めなくなったりする事も有りますが、辞めてしまったら何にもならないと思いついてまた始めからやり直す事の繰り返しです。何年やっても進歩が少なく悩みの種ですが、今後ますます努力して少しでも進歩するように頑張りたいと



▲舞台で「オン・ステージ」の実技指導

思っています。今一番の課題は気持ちを入れて表現すること、子どもに成り切って表現する事で、一番難しい事です。どうしても自分が出てしまったり恥ずかしさで変な動きになってしまったりするのでその度ごとに反省させられます。自分ではその物に成っているつもりでも相手にそれが通じないという事はまだ力不足という事です。

表現に関しては、こう書いていらっしやいます。「表現は保育者にとっても大切にむずかしいもの幼児に接するにもその表現の仕方で幼児の心に通じるものであり特に現代はその点幼児と教師のやりとりが幼児教育になりますので大変です」。

フォークダンスや民謡などは、保育者の身体を鍛えるのに大変役に立つ材料だと思います。保育者はいろいろな身体の使い方をすることが必要ですが、その身体の使い方の勉強にとってもプラスになると思います。また楽器遊びもお子さんがいつでも出来る様

な材料で、とてもやさしい打ち方で、楽しめる例を出していただきます。時には楽器も手作りで作ってみたり、身近な道具を使って音を出してみたりしていろいろ工夫して研究したりいたします。

劇遊びでは、それぞれの役に成り切ってお話を表現していく訳です。それぞれの役に合った動きはもとより小道具の作り方や、衣装の効果的な使い方まで指導していただきます。お面ひとつにしても、描き方・色のぬりかた・切り方・ベルトの付け方といったるまで細かく教えていただき、普段の手抜き保育を反省させられる事もあります。小道具や太道具を作る時は、まさに製作の研究会になるのです。こうして数多くの研究生と交わりながら単に動きの勉強のみでなく、総合的に学ぶ事が出来、更に人と人との和も含めていろいろな神経の使い方に至るまで勉強させていただいています。これらは全て保育をする上で欠かせない大切な事ばかりです。

「オン・ステージ」で使う曲や歌等の材料は、ほとんど子どもの材料を使っていますが、これをこのまま子どもにおろして教えたりやらせたりする為の見本というのではなく、「オン・ステージ」はあくまでも教師自身の勉強の場であり、修業の場であると私は思っています。幼児教育にとって最も大切な環境の一つである教師の立ち居振る舞いや身のこなし、リズムミカルな動き、発声、思いやり、細かい配慮、等々……を最大限に駆使して四方八方に神経を張り巡らし、子ども達がより良い成長をする為のお手伝いが出来るよう、教師自身が常に勉強して自分を高めつつ、自己変革していかなければならないと思います。

此の研究会の大きな特徴は、身分を越え年齢を越えて若い方も年上の方も一緒になって同じレベルで参加すると言うところでしょうか。そしてその上でも熱心で気持ちの優しい方々が多いのも他の研究

会に類を見ない様に思います。お互いに励まし合い高めあったり、時には良き相談相手になったりして、かけがえのない仲間として共に成長していく仲間であると言えるでしょう。この考え方に賛同して参加者が増え、仲間の輪がもっともっと広がっていくことを願いつつペンを置きたいと思います。

子どもは 瞬間 瞬間 に生きています。

保育者は 常に 自分の機能を動かし

お子さんの生活に あらゆる面で

応えてあげなければ なりません。”

(堀合先生語録より)

*堀合先生の文章は第十回オン・ステージのプログラム

より引用しました。

(共立女子学園大日坂幼稚園)

平成7年度 新現代幼児教育研究会主催

夏期講習会及び研究発表会 (第16回オン・ステージ)

日 時 1995年8月20日 (日)

午前10時~12時 講演 (講師未定)

午後1時~4時 音楽リズム・オン・ステージ

会 場 十文字学園講堂

連絡先 十文字幼稚園 堀合文子 TEL 03-3918-1668

*上記オン・ステージに参加ご希望の方は8月10日~20日まで講習いたしますので、どなたでもどうぞ!お待ちしております。